

作成日 2009/08/10
改訂日 2016/09/21

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ボンド SU200 (グレー)
製品コード	144402
供給者の会社名称	コニシ株式会社
住所	大阪市中央区道修町1-7-1(北浜TNKビル)
担当部門	大阪研究所 研究開発第5部
電話番号(大阪営業推進部)	06-6228-2994
緊急連絡電話番号(夜間・休日)	090-7356-6462
推奨用途及び使用上の制限	工業用製品の組み立て接着兼シール用。所定の用途以外には使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体 区分外 自然発火性固体 区分外 自己発熱性化学品 区分外 水反応可燃性化学品 区分外 酸化性固体 区分外
健康有害性	急性毒性(吸入:蒸気) 区分4 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A 吸引性呼吸器有害性 区分外 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

警告
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H332 吸入すると有害

注意書き 安全対策

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
保護手袋を着用すること。(P280)

応急措置

保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
特別な処置が必要である。(P321)

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
 化学名又は一般名 シリル化ウレタン樹脂系接着剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
酸化チタン (IV)	1~5%	TiO ₂	(1)-558	—	13463-67-7
酸化カルシウム	1~5%	CaO	(1)-189	—	1305-78-8
有機スズ化合物	1%未満	非公開	非公開	非公開	非公開

分類に寄与する不純物及び安 情報なし

定化添加物

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)

酸化カルシウム (法令指定番号: 322) (5%未満)
 酸化チタン (IV) (法令指定番号: 191) (5%未満)

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
 多量の水と石鹼で洗うこと。

眼に入った場合

直ちに医師に連絡すること。
 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

特有の危険有害性

可燃性物質: 燃えるが、容易に発火しない。

特有の消火方法

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服 (耐熱性) を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護
 具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。
 漏洩場所を換気する。
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 作業者は適切な保護具 (『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照) を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
 河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
 希积水は汚染を引き起こすおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法及び
 機材

危険でなければ漏れを止める。
 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉でき

二次災害の防止策

る空容器に回収する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
 換気の良い場所で取り扱うこと。
 眼、皮膚又は衣類に付けないこと。
 取扱い後はよく手を洗いうがいをする。
 火気注意。

接触回避

衛生対策

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

『10. 安定性及び反応性』を参照。

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

特別に技術的対策は必要としない。
 『10. 安定性及び反応性』を参照。
 保管温度：5～35℃
 日光から遮断すること。
 開封後は速やかに使い切る。
 湿気厳禁。
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

安全な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
酸化チタン (IV)	—	0.3mg/m ³ ;【粉塵許容濃度】(第2種粉塵) 吸入性粉塵1mg/m ³ 総粉塵4mg/m ³	TWA 10 mg/m ³ , STEL -
酸化カルシウム	—	—	TWA 2 mg/m ³ , STEL -
有機スズ化合物	—	—	—

設備対策

換気をしながらご使用ください。
 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。

保護具

呼吸器の保護具

換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣、必要に応じて保護服及び保護長靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

固体

形状

ペースト状

色

グレー

臭い

わずかに特異臭

pH

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

情報なし

引火点

119℃ (クリーブランド開放式)

燃焼又は爆発範囲

下限

データなし

上限	データなし
比重 (密度)	1.42~1.52 g/cm ³
溶解度	水に不溶、有機溶剤に可溶
自然発火温度	情報なし
粘度 (粘性率)	900~1500 Pa·s

10. 安定性及び反応性

反応性	空気中の水分と反応する。
化学的安定性	通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	空気中の水分と反応し硬化する。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	酸化性物質、その他一般的な混触禁止物質との混触を避ける。
危険有害な分解生成物	燃焼などによりCO等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	分類結果は急性毒性 (経口) - 区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため急性毒性 (経口) - 分類できないとした。
経皮	分類結果は急性毒性 (経皮) - 区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため急性毒性 (経皮) - 分類できないとした。
吸入	混合物の急性毒性推定値が19.711mg/lのため急性毒性 (吸入: 蒸気) - 区分4とした。 粉じん、ミストによる健康への有害性は判断できないため急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト) - 分類できないとした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	混合物の成分の10X (皮膚腐食性及び皮膚刺激性-区分1+1A+1B+1C) の濃度合計が10%以上のため皮膚腐食性及び皮膚刺激性-区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	混合物の成分の10X (眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性-区分1+皮膚腐食性及び皮膚刺激性-区分1+1A+1B+1C) の濃度合計が10%以上のため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性-区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなしのため呼吸器感作性-分類できないとした。 分類結果は皮膚感作性-区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため皮膚感作性-分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類結果は生殖細胞変異原性-区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため生殖細胞変異原性-分類できないとした。
発がん性	本製品に含まれるカーボンブラック、酸化チタン (IV) はその粉体吸入により区分2とされるが、本製品はペースト状であることから、発がん性-分類できないとした。
生殖毒性	分類結果は生殖毒性-区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため生殖毒性-分類できないとした。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	本製品に含まれる酸化カルシウムはその粉体吸入により、区分2 (呼吸器系) とされるが、本製品はペースト状であることから、特定標的臓器毒性 (単回ばく露) - 分類できないとした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	本製品に含まれる酸化カルシウムはその粉体吸入により、区分2 (呼吸器系) とされるが、本製品はペースト状であることから、特定標的臓器毒性 (反復ばく露) - 分類できないとした。
吸引性呼吸器有害性	40℃動粘性率が20.5mm ² /sより大きいいため吸引性呼吸器有害性-区分外とした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性)	分類結果は水生環境有害性 (急性) - 区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため水生環境有害性 (急性) - 分類できないとした。
水生環境有害性 (長期間)	分類結果は水生環境有害性 (長期間) - 区分外となるが、分類できない

生態毒性
オゾン層への有害性

成分が90%以上含まれるため水生環境有害性(長期間)一分類できないとした。
情報なし
データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃油又は廃油と廃プラスチック類との混合物に分類される(管理型産業廃棄物)。

汚染容器及び包装

乾燥物は廃プラスチック類に分類される(安定型産業廃棄物)。
空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。
外箱、紙管など紙製容器・包装: 回収または紙くずとして処理(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)。
金属缶、金属ドラム、金属チューブ類: 金属くずとして処理(単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。
ガラス容器: ガラスくずとして処理(単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。
プラスチック製のボトル、チューブ、袋など: 廃プラスチック類として処理(単体で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う)。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code	Not applicable

航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない

国内規制

陸上規制	該当しない
海上規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	該当しない
国連番号	該当しない

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9)
名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)

消防法

指定可燃物 可燃性固体類

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16の項

16. その他の情報

連絡先

参考文献

その他

**ホルムアルデヒド放散等級
4 VOC放散速度基準
前版からの変更点**

『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。

J I S Z 7 2 5 3-2 0 1 2 G H Sに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S)
J I S Z 7 2 5 2-2 0 1 4 G H Sに基づく化学物質等の分類方法
日本ケミカルデータベース(株) S D S作成システム「ロジスト」により作成。

経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス (平成25年7月)
一般社団法人 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン (2012年6月)

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

S D Sの伝達の経路:安全データシート (S D S)は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。恐れ入りますが、未入手の場合のS D Sの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】

法改正や製品の改良によりS D Sを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-001468 F☆☆☆☆

日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-401309 4 VOC基準適合

「3. 組成及び成分情報」に変更があります

「11. 有害性情報」に変更があります

「12. 環境影響情報」に変更があります

「15. 適用法令」に変更があります